

小児看護学実習

I 実習目的

小児看護の対象である子どもとその家族を理解し、成長・発達段階及び健康状態に応じた看護実践に必要な基礎的能力を修得する

II 実習目標

- 1 乳幼児期の子どもの成長・発達の特徴と個別性を重視したかかわりの重要性を理解する
- 2 学童期の子どもの成長・発達の特徴と学校保健の実際を理解する
- 3 成長・発達に不安のある子どもとその家族への支援について理解する
- 4 入院している子どもと家族の特徴、および子どもの健康障害の状況を理解し健康上の問題を明確化する
- 5 入院環境において、子どもと家族の状況に合わせたかかわりができる
- 6 小児科外来の特徴と看護の役割を理解する
- 7 N I C Uの特徴と看護の役割を理解する
- 8 子どもの最善の利益と権利を考えたかかわりの重要性を考察する
- 9 実習を通して、倫理的な態度と言動を示す

III 実習構成

- 1 単位と時間数
2 単位（総時間数 80 時間）
- 2 実習構成内容・実習場所・実習時間

実習構成内容	実習場所	実習時間	
オリエンテーション	新潟県立十日町看護専門学校	3 H	
健康な子どもの成長・発達	保育園	14 H	
	小学校	7 H	
成長・発達に不安のある子どもとその家族への支援	十日町市発達支援センター「おひさま」	4 H	
	新潟県立十日町看護専門学校	7 H	
病気をもつ子どもとその家族への看護	新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院	病棟	35 H
		外来	7 H
		N I C U	3 H

IV 実習内容

実習目標・行動目標	実習内容
<p>1 乳幼児期の子どもの成長・発達の特徴と個性を重視したかかわりの重要性を理解する</p> <p>(1) 乳幼児期の子どもの成長・発達の特徴を述べる</p> <p>(2) 乳幼児期の子どもの日常生活行動の自立状況及びコミュニケーション能力に応じた支援を実践する</p> <p>(3) ひとりひとりの成長・発達に応じた保育の実際を述べる</p> <p>(4) 乳幼児期の子どもの成長・発達を支える保育環境を述べる</p>	<p>①年齢別成長・発達の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形態的特徴 ・身体機能 ・知的機能 ・コミュニケーション機能 ・情緒・社会的機能 ・個性 <p>②年齢別の日常生活行動の自立状況と保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄・食事・衣服・睡眠・清潔の世話 ・遊びと運動の支援 ・生活習慣の改善 ・成長・発達に応じた安全対策と事故予防 ・保護者との連携 <p>③保育士の園児へのかかわり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことば・しぐさ・表情・機嫌の捉え方 ・指導の仕方、伝え方、次の行動を促す声かけの仕方、全体の見方、個の見方、褒め方、叱り方 ・個別対応 <p>④保育士と保護者のコミュニケーション</p> <p>⑤保育園の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の沿革と保育方針、特色 ・園児の年齢構成と人数、職員数 ・保育環境と設備 施設構造、設備、遊具、給食 <p>⑥人との関わりを育む環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間保育行事、家族・地域との交流 <p>⑦事故防止と安全教育</p> <p>⑧健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康管理計画と日々の健康チェック (観察・体温測定・活動状況) ・病気やけがの対応 ・食育への取り組み ・食物アレルギーへの対応
<p>2 学童期の子どもの成長・発達の特徴と学校保健の実際を理解する</p> <p>(1) 学童期の子どもの成長・発達の特徴を述べる</p> <p>(2) 学童期の子どもの健康課題を述べる</p> <p>(3) 学童期の子どもへの健康の保持・増進活動から学校保健の実際を述べる</p>	<p>①年齢別成長・発達の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形態的特徴、身体機能 ・感覚運動機能 ・知的・情緒機能 ・社会的機能 友人関係、学校生活への適応 (生活習慣の自立、食生活、学習と遊び) ・性差 ・第二次性徴 <p>②保健室の利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故、外傷、救急処置、保健指導、休養、相談

	<p>③保健室来室時の児童の訴え方、養護教諭の対応</p> <p>④授業や昼休み、給食時間等の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことば、感情コントロール、不適応行動（落ちつかない、粗暴）対人関係（遊べない）、食育の実際、偏食等 <p>⑤保健管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急処置、健康診断、健康観察、校内巡視、保健室の利用状況の分析・評価 ・疾病予防と管理 ・学校環境衛生、安全管理、食物アレルギー対策 ・疾患をもつ児童への対応 <p>⑥保健教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科保健、健康づくり、性教育 <p>⑦健康相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康課題への対応 ・学級担任・保護者・学校医・関係機関との連携 <p>⑧学校保健活動の意義と養護教諭の役割</p> <p>⑨近年の子どもにみられる傾向と問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧困、いじめ、ICTトラブル、虐待、不登校など
<p>3 成長・発達に不安のある子どもとその家族への支援について理解する</p> <p>(1) 発達支援センターを利用している子どもの成長・発達の特徴と家族の状況を述べる</p> <p>(2) 発達支援センターにおける支援活動を述べる</p>	<p>①施設概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能、施設整備の背景、定員、年齢 ・管理運営体制 (設置主体、組織、職員数、職種) ・施設の配置・動線、施設設計の特徴 ・他施設との連携、学校との交流 ・利用方法 ・発達支援センターの必要性と役割 <p>②施設内見学</p> <p>③職員の子どもと家族への対応</p> <p>④発達支援センターを利用している子どもの成長・発達の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことば、対人関係、行動、リハビリ <p>⑤発達支援センターを利用している子どもと家族の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達支援センター利用の動機、相談内容、期待・不安 <p>⑥支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援、訓練、研修、家族支援
<p>4 入院している子どもと家族の特徴および子どもの健康障害の状況を理解し健康上の問題を明確化する</p> <p>(1) 子どもの成長発達段階と個別性を理解して、健康障害の状況について述べる</p> <p>(2) 子どもと家族の疾患や入院に対する思いについて考えることができる</p> <p>(3) 子どもと家族の療養環境について理解する</p>	<p>①入院に至った経緯と現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの疾患に関連する病態生理、検査、治療経過 ・子どもの疾患および入院に対する理解の程度 ・家族の健康に対する考え方 <p>②成長発達の状況、自立度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の未熟性の理解 ・子どもの成育環境に関連した個別性

	<ul style="list-style-type: none"> ・入院による子どもの日常生活行動の自立状況の変化 ③入院に伴う家族の役割の変化や影響 <ul style="list-style-type: none"> ・家族の状況 ・きょうだいへの理解 ④子どもと家族の状況の理解と今後予測される変化 <ul style="list-style-type: none"> ・入院や疾患に伴う苦痛の有無と程度 ・疾患の経過 ・子どもと家族の疾患や入院、退院後の生活に対する思い ・子どもと家族のストレス反応 ・家族の対処状況 <ul style="list-style-type: none"> 生活と役割関係、価値観・信念、面会状況、付き添い、子どもとのコミュニケーション ⑤療養環境の中での成長発達段階に応じた事故防止および環境整備の必要性を考える <ul style="list-style-type: none"> ・各成長発達段階で起こりやすい事故 ・入院環境の危険因子
<p>5 入院環境において、子どもと家族の状況に合わせたかかわりができる</p> <p>(1) 子どもの状態と成長発達段階および個別性をふまえたかかわりを考える</p> <p>(2) 子どもと家族の状況や状態に応じたかかわりを実践する</p> <p>(3) 子どもと家族の思いを尊重し、意思決定を支えるかかわりを実践する</p> <p>(4) 自己のかかわりを振り返り、客観的に評価を行う</p>	<p>①子どもの成長発達段階と個別性を考慮したかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境調整、食事、排泄、清潔、衣生活、睡眠時間、午睡、遊び、学習 ・プライバシーの保護 <p>②子どもの状態に合わせたかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患に伴う症状の有無 ・安静の保持 ・機嫌 <p>③具体的なかかわりの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠に基づいたかかわりの必要性 ・かかわりに対する子どもの反応 ・自己のかかわりが、子どもと家族に与えた影響 <p>④子どもの理解力・コミュニケーション能力に応じた説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドボカシー ・インフォームドアセント ・プレパレーション ・ディストラクション <p>⑤家族の思いに寄り添う姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付き添いの状況 ・きょうだいへの配慮、対応 ・家族役割の変化への関わり ・現在の家族構成からの特徴と問題点 ・退院後の生活を考えた対応、連携 <p>⑥家族や友人との面会・交流の状況と子どもの反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育機関との連携
<p>6 小児科外来の特徴と看護の役割を理解する</p> <p>(1) 小児科外来の特徴を述べる</p>	<p>①小児科外来の設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造、空調、設備、スタッフの配置、安全対策、感染予防

<p>(2) 通院治療を受けている子どもとその家族への看護の役割に気づきを示す</p>	<p>②通院治療を受けている子どもと家族の特徴 ③一般検診、専門外来、乳児検診、予防接種 ④外来における事故防止 ⑤緊急度の把握（トリアージ）、問診表 ⑥伝染性疾患への対応 ⑦診察時の援助 ⑧処置・検査時の援助 ・身体測定、バイタルサイン、採血、点滴、検尿、腰椎穿刺、心エコー、CT、MRI ⑨プライバシーの保護、倫理的配慮 ⑩子ども・家族への安心の確保 ⑪子どもの理解力、コミュニケーション能力に応じた説明 ⑫自己管理・家族支援 ・病状悪化時の対応 ・日常生活の過ごし方 ・服薬指導 ・次回受診日までの注意点 ・セルフケアへの支援 ・育児支援と健康教育 ⑬外来看護における看護の役割</p>
<p>7 NICUの特徴と看護の役割を理解する (1) NICUの特徴を述べる (2) NICUにおける子どもとその家族を支える看護の役割に気づきを示す</p>	<p>①NICUの設備 ・構造、空調、設備・医療機器の設置、安全対策、感染対策、医師・看護師の配置 ②NICUに入院する子どもと家族の特徴 ・どのような子どもが入院の対象か ・母体との関連 ・週数による特徴と治療・看護 ・体温管理、呼吸・循環管理、輸液管理、感染防止、低血糖予防、保育器管理 ・生活の援助、栄養、排泄、清潔、睡眠 ・環境調整（温度、音、光）への配慮、ディベロップメンタルケア ・母乳の管理 ③プライバシーへの配慮 ・面会児への対応 ・子どもの権利 ④面会者・面会制限 ・感染を考慮した対応 ・愛着形成を重視した取り組み ⑤家族への支援 ・子どもと家族の相互作用の支援 愛着形成、カンガルーマザーケア、タッチング、ポジショニング・ホールディング、家族との連絡方法、交換日記 ・ファミリーセンタードケア ・母乳育児の支援 ・日常生活の支援 ⑥退院支援 ・退院後の医療ケアの準備</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・退院後の相談窓口、急変時の対応 ⑦社会資源の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・未熟児養育医療 ・小児慢性特定疾病医療費助成 ・MSW ・新潟県「NICU入院児退院調整ガイドブック」参照 ⑧訪問診療・訪問看護、保健師、介護職員などとの連携・調整 ⑨継続支援 ⑩NICUにおける看護の役割
<p>8 子どもの最善の利益と権利を考えたかかわりの重要性を考察する</p> <p>(1) 子どもの最善の利益と権利を遵守する必要性を理解する</p> <p>(2) 子どもの最善の利益と権利を守るための看護師の役割について、自己の考えを表現できる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの権利 <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法 ・児童憲章 ・国際連合・子どもの権利宣言 ・児童の権利に関する条約 ②医療・治療の選択・決定 <ul style="list-style-type: none"> ・親権、代理決定 ・子どもの自律性 ・親子関係 ・アドボカシー ③子どもへのケア <ul style="list-style-type: none"> ・説明と同意 ・身体的苦痛と抑制・拘束 ・親・家族との分離 ・遊びと学習 ④子どもと家族の生活を支える看護の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・疾患を持つ子どもと家族に対する看護 ・健康な子どもに対する看護 ・地域で生活する子どもと家族に対する看護
<p>9 実習を通して、倫理的な態度と言動を示す</p> <p>(1) 他者からの意見や助言を受け止め、自己の態度と言動で示す</p> <p>(2) 自己の課題解決に向けた学習に対する姿勢を示す</p> <p>(3) 実習での経験を踏まえながら、自己の学びを示す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 看護職の倫理綱領 ② 身だしなみを整える ③ 教員、スタッフ、患者とのコミュニケーション ④ 相手に対する思いやり、配慮、言動 ⑤ 意見や助言を謙虚に聴く姿勢 ⑥ 自己の行動の振り返り ⑦ カンファレンスに臨む姿勢 ⑧ カンファレンステーマに沿った意見交換 ⑨ 報告・連絡・相談 ⑩ 計画的な看護技術の経験 ⑪ 主体的な学習、追加学習 ⑫ 心身の健康管理 ⑬ テーマに沿ったレポート ⑭ 学習した知識の活用

V 実習配置

別紙参照

VI 実習方法

- 1 病院実習
 - 1) 病棟実習
 - ・受け持ち患児とその家族を理解し、必要な援助を実践する
 - 2) 外来実習・NICU実習
 - ・見学及び指導者の説明を通じて学習する
- 2 病院外施設実習
 - 1) 保育園
 - ・各年齢別クラスをローテーションし、1日の保育スケジュールに沿った保育場面を見学する
 - ・状況に応じて保育士の指導を受けながら一緒に保育場面での対応をする
 - 2) 小学校
 - ・児童の成長・発達の理解については、授業参観や休憩時間等を児童と共にすることを通じて学習する
 - ・児童の健康課題と健康の保持・増進活動については、養護教諭から説明を受ける。また、保健室に来室した児童の対応を見学する。状況に応じて指導に従い一緒に対応する
 - ・給食の実際から、食育への取り組みについて学習する
 - 3) 発達支援センター
 - ・指導者の説明や施設見学を通じて学習する

VII 実習記録

- 1 評価表（小児様式1）
- 2 小児看護学実習学修成果レポート（小児 様式2）
- 3 小児看護学実習 情報シート（小児 様式3-①、3-②）
- 4 小児看護学実習 計画シート（小児 様式4）
- 5 毎日の実習記録 計画立案前（共通 様式F-①）
- 6 毎日の実習記録 計画立案後（共通 様式F-②）
- 7 小児科外来実習における学び（小児 様式5）
- 8 NICU実習における学び（小児 様式6）
- 9 保育園実習記録1、2（小児 様式7-①、7-②）
- 10 小学校課題レポート（指定の書式で各自作成する）
- 11 発達支援センター実習における学び（小児 様式8）
- 12 事前学習・追加学習ファイル

<以下の記録は教員の指示に従って提出する(実習指導者に提出する記録)>

- ・小児科外来実習における学び
- ・NICU実習における学び
- ・保育園実習記録1、2
- ・小学校課題レポート
- ・発達支援センター実習における学び

VIII 実習評価

最終評価は、評価表に基づき担当教員が評価する